



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

『未婚の母』

「私、赤ちゃんができたの。生むつもりよ。」ため息まじりの声で私は両親に告げた。言いながら体が震えるのを感じた。私の人生の中で、これほど辛い瞬間があっただろうか。誰だつてしたくない経験だ。でも普通みんな思っているんじゃないだろうか、「私には関係ない」と。実際私もそう思っていた。自分にはあり得ない、自分だけは大丈夫だと。でも私はみんなに忠告したい。それは大きな間違いだと。「自分にはあり得ない」と思うことは単に自分に都合のいい理論だ。性行為に100%の安全性はなく、妊娠する可能性は避けられない。そしてこれは実際私自身に起こった。

セックスには様々な責任が伴ってくる。相手に対する責任だけでなく、妊娠した場合の子供に対する責任も考えなければならぬ。無計画なセックスの結果妊娠してしまい、様々な問題が持ち上がってくる。その原因は、自分達の行動に責任を持たず、責任からどうやって逃れるかということしか考えないからだろう。本当に責任のあるセックスは結局これは結婚している男女間のみでしかあり得ない。

未婚の女性の妊娠。これはどう言おうとも言い訳は無用、最悪のケースだ。生むか生まないかどんな結論であれ、状況に応じてどう対処しようかと、それに伴う様々な問題は避けられない。私は、子供を生み育てることが一番いい方法だと思っただけで、それでも色々な面で問題がある。親子共々健康で、周りの援助にも支えられ、今のところ何とかやっている。しかし私が学生の身分で、親から全く独立していない立場であつたとしたら、果たして子供の親になる資格があつただろうか。私は比較的恵まれた環境にあるが、それでもこれから直面するだろう色々な問題を思うと悩みは尽きない。あの子は世間一般に言いついゆる私生児だ。将来それがあの子にどんな形で影響してくるのか。また、いつの日にかあの子にちゃんとした父親ができるだろうか。

親になるということは簡単なことではない。確かに母親になることは素晴らしいことだが、とても価値のあることではなく、喜びや愛情が得られる一方、心配事や悩み、苦労も尽きない。何事にも子供が優先で親は自分のことは二の次、親になるには心身共に成熟していることが必要だ。だからこういふ結論に達する「結婚前のセックスはするべきではない。」責任のとれない状況で妊娠して出産する場合、子供を養子に出すことで決しようとする人もいる。しかしそれも最良の方法とはいえない。子供を養子に出すのは辛く悲しいことだ。中絶はもっと悲しい方法だ。母親は子供を中絶してしまつた罪悪感を引きずりながら生きてゆくだろう。多くの人は中絶が一番手っ取り早い簡単な解決法だと信じているよ。うだが、これは大きな間違いで、中絶はむしろそれを原因とする様々な問題の始まりだと言えるだろう。

実だといえるだろう。

今になってやっと気が付いた。結婚していない男、女間の性交は破滅的だと。傷つき失望感に打ちひしがれ、利用されたという嫌疑にさえつきまといわれ、そうして必然的に訪れる別れ……。でも本当に犠牲になるのは、何の罪もない赤ん坊だ。例え中絶を免れて生まれてきたとしても、まだ親になる自覚もなく心の準備もできていない若いカップル達は親としての責任を怠ったり、子供を虐待するケースもある。

行動する前に、後悔しないようにその行為がどういふ結果を招くか考えて下さい。私は考えが足りなかった。でも今は分かる。やっと気が付いた。ただ性的快感が欲しかっただけの彼に、私は『ノー』とさえなかった。

望まない妊娠を防ぐために本当に必要なもの、それは避妊法を広めるこ

とではなく、具体的に性行為を節制する教育だと思

う。婚前交渉したとえ彼が求めてきても、結婚していないなら取るべき態度は一つ。『ノー』と首を横に振る勇気を持たなければならぬ。

真の意味でのフェミニズムとはプロ・ライフである

フェミニスト達はみんな女性の中絶の権利を支持している、と皆さんはお考えでしょう。でも私は、フェミニズムとプロ・ライフという二つの考え方は両立していくべきものだと考えている多くの女性の中の一人です。

フェミニストを語る人々と同様、私もまた私自身の人生は公平に取り扱われ、尊重されるべきものだと思つし、自分で管理するものであると思つていきます。しかし、胎児の権利を踏みにしてまで、自分の権利を確立することが公正な判断だとは思えません。生命は神様からの尊い贈り物であるのに、どうして人が人の生命を左右することができるでしょう。

特定の人は他の人々よりも正当に扱われて然

るべきだと主張する人達がいます。こういった考え方は良心を蝕む暴力的な倫理を生み出してしまいます。自分の敵や犯罪者を殺すのは、他の誰かを殺すよりは良心の痛みはない、ということとは胎児の生命を絶つことは乳児殺しに比べて罪の意識なく手軽にできる、というような考え方を導いてしまいます。

人間に価値の高い、低いレッテルを貼ることは被害者の人間性を奪うことであり、そうやって人にレッテルを貼る人々の人間性さえ無くしてしまいます。多くの人々が殺害に關して無感覚になつてきて、人間の生命は安価なものとなり、みんなお互いを尊重することを忘れつつあります。こういった事態は、フェミニストが糾弾し続けてきたことと全く矛盾しているではありませんか！

確かにフェミニズムは女性の生活向上に大いに役立ってきました。しかしこういった進歩も、中絶をも女性の権利として認めようとするフェミニストの自由選択主義によつて、また後退しつつあります。中絶は、女性の心身にたびたび大変な悪影響を及ぼすだけでなく、中絶を容認することで、女性の子供は使い捨てのできる所有物だという考え方を社会に蔓延させてしまふのです。つまり、それは、女性は単なる所有物で、何度も使用可能なセックスの対象物である、という古い概念を今さらながらに強めるものです。

こういった中絶に対する考え方を作り出した原因といったものを考えて

みましよう。女性は自分の妊娠に関して全面的な権利があるという考え方。

平等性確立のため女性が自由意志で妊娠を避けることができるという考え方。女性の精神的苦痛を利用することで利益を得ようとする中絶専門診療所や病院の金儲け主義。

金銭的あるいは仕事の上で成功するためには、女性だつて何であろうと(たとえ子供の生命でも)犠牲にすべきだとする風潮。母子に関わる福祉費に比べると中絶費用の方がずっと安くつくので、結果的により望ましいという狡猾な理論。中絶費用を負担することで、生まれてくる子供を扶養する義務を拒否しようという新たな正当権を主張する男性の出現。

この反女性、反子供主義の環境には恐怖すら覚えます。中絶という急場しのぎの解決策は当座の問題

を解決するよう見えませんが、その実、より悪い事態を後に控えることにな

るのです。 どうしたらプロ・ライフの考え方中心のフェミニズムを普及させることができるのでしょうか。プロ・ライフ・フェミニズムを

行させるちよつとした効果的な方法を少し紹介しましょう。1・自分の子供に全ての生命は神聖であり、全ての人類は平等であると教える。2・プロ・ライフの団体活動に時間とお金を費やす。3・国会議員に手紙を書いて、合法化された胎児殺害に抗議を唱える。4・自分の住んでいる地域内で、レイプの被害者達に医療的措置、妊娠の可能性を最小限に止めるため(を受けさせる、考人や身体障害者に十分な施設を供給する、人道にかなった養子縁組みの手続きを整える、といった活動を推進するよう働きかけ

る。5・未婚の妊娠した少女や未婚の母親たちを非難することを拒否する。

6・いかなる理由にせよ自分の子供を養子縁組みのため手放す決心をした既婚の女性を尊重する。7・そして最後に、中絶した女性に対して同情の心を持つ。

中絶の権利のため運動することは、世間体や不正に打ち勝つことに比べれば、たやすいものです。しかし、中絶によって女性が変わ遷していくような中で社会が成り立つようなことがこれ以上続くようでは、社会はもう二度と再編成できなくなるでしょう。プロ・ライフ・フェミニズムとは、あらゆるものに対して公正に振る舞い、敬意を忘れないということなのです。もし、皆さんが少数の人々に近寄ろうとささやかな努力をすれば、生命の尊さに満ちあふれた社会を築き上げる

ことができるでしょう。

“お前を胎内につくるより先に、私はおまえを知っていた。母のふところから出るより先に、私はおまえを聖別し、……”

(エレミヤ1:5)



ABORTION

QUESTION & ANSWERS

中絶は女性だけの問題でしょうか。

中絶はどんなグループでくくったとしても、たとえ世界の全ての女性の数をもつても十分ではないほど重大な問題なのです。なぜなら、中絶は文字通りに人間の生命の問題であり、全ての人間にかかわる問題だからです。中絶という行為そのものはまだ生まれぬ赤ちゃんの生命を奪つのです。そしてまた、中絶の悲惨さと代償は女性、男性どちらの人々をも傷つけるのです。

女性は自分の体をコントロールする権利があるのではないのでしょうか。

この質問は問題の視点をそらします。女性が妊娠

した時、生物学的に彼女の体内でもう一人の人間が育っているのです。もし

『自分の体をコントロールする権利』というのが、彼女の子宮内の子供の生命を止めることまで含むのなら、確かに彼女はその権利を持っていると言えるでしょう。しかし、その意味で『彼女の体』というのは、非科学的であり非論理的です。母親の自然の義務は子供の幸福のために世話をすることです。妊娠中にそうした世話ができるように母親の体はつくられていきます。母親の『権利』とはその自然な成り立ちの否定にまで拡大解釈されるでしょうか。

望まない妊娠に対して、女性には他にどのような対応策があるのでしょうか。

まず最初の対策として、もちろん子供を産むことです。もし女性が子供の生

命のために決心したならさらに対策があります。これらの選択のうち、その女性の生活状況、年齢、赤ん坊への思い入れ、家族の赤ん坊への態度などを十分考慮した上で決定が下されるでしょう。赤ん坊を引き取っても良いし、養子に出しても良いのです。たとえ既婚者であっても夫の同意があれば、子供を養子に出して手放すことは合法なのです。

子供を産んだ女性にとつてその子を養子に出すのは自然なことなのでしょうか。

子供のために一番良いことをするのが自然なことなのです。未婚あるいはとても若い母親は、子供を養っていけないという結論に達するかもしれない。子供を手放した傷みは一生離れないかもしれないが、子供は愛情をもつ

て養ってくれる家庭に貰われていったという考えに慰められるでしょう。

国内ニュース

落合恵子

今回の出生率論議でも気になるのは、高齢化社会をマイナスとしてのみ位置づける視点です。私は、むしろ豊かさを問い直し、私たちの意識を変えるチャンスとしてとらえたい。今までの「早く、多く、とにかく持つ」という価値観に、私たちが疲れを感じているのなら、1.53を「問いかけの数字」として見つめ直すことで、新しい価値観が生まれる可能性はあると思います。

また、この問題を話し合う時、産むか産まないか、あるいは産めるか産めないかという対立関係になりがち。それで女性が二分されるのは悲しい。今、必要なのは、対立ではなく、それぞれの立場からの景色の持ち寄り。

産むことの素晴らしさ

だけでなく、産んだことで見えた大変さももつと語っていいと思う。産まない選択をした人もそこに至る過程には、悩みやつまみたくても産めない人から見える景色もある。もう少し、みんなが語り合いたい。

1.53という数字を、今、社会に生きている人間の立場からだけとらえる「価値観」をも是非、見つめ直し、問い直し、私たちの意識を変えるチャンスとしたいものです。出生率1.53の背後には、おびただしい数の中絶が行われているという事実、小さな生命を抹殺しているという事実があるのです。決して表沙汰にはされない胎児の立場からはどんな発言があるのでしょうか？

プロ・ライフ

国際ニュース

【二人の母に子は幸せ?】

エル・ハイス紙によると、スペイン北部の都市ビルバオで、男の赤ちゃんが誕生した。体重3キロ、元氣そのもの。ちよつと変わったところといえば、二人の女性の間に生まれた、ということ。

パパはアナ、ママはマリア（英に仮名）、35歳の会社役員と30歳の教師だ。二人は6年前から一緒に暮らしており、4年くらい前から子供を持つことを真剣に考え、人工授精を受けた。精子は、父親役のアナの髪や目の色など、身体的特徴の似通った男性のものから選ばれた。

スペインでは、1987年に人工授精法が制定されて以来、婚姻関係をもたない24人の女性が人工授精を受けており、うち今回の

ケースを含め、3組のレズビアンに子供が生まれている。

カトリックの根強いスペイン社会で、婚姻外の妊娠には賛否両論あるものの、このような新しい家族の形を支持する人々は、「望まれて生まれるのが、子供の最大の幸せ」と。

朝日新聞1991.5・17

【もう子供はいりません】

世界でも人口増加率の高いケニアだが世界銀行の調査によると、既婚女性の50%はもう子供はいらないと答えている。

サンデイ・ニューズによると、ケニアでは人口と家族の人数が大変化したところがある。家族の人数は一九八四年の平均7.7人に対し、88年には6.7人と減少。またもつと子供が欲しいと答えた女性は26%を占めているが、ただし2、

3年先と述べている。既婚女性の27%は避妊の努力をしており、84年の17%をはるかにうまわっている。

この変化は、人口増加率を抑えるための国民教育、特に学校、教会、非政府組織（NGO）、新聞、ラジオ、労働組合などが計画出産を促した努力のためのものである。

またケニアの教育制度も一役買っている。世界銀行調査は伝えている。制服、本、その他の品の費用が高く、教育費の支出が多めで、親たちは大勢の子供の教育はできず、子供数は少なく希望している。

朝日新聞 1991.8・16

読者の声

母親に希望と勇気を

いつもパンフレットを送って下さりありがとうございます。毎日ミサ聖祭の中でも特に「神の小羊、世の罪を除きたもう主よ。」のところで、小さい人々の中の小さい人である胎の子のため、その救いのため、その完成のため、心を尽くして祈っています。また、12月28日の幼子殉教者の祝日は特に心を込めて小さい命の人々のため祈っています。皆さんの働きが教会の宣教の使命の中にその活躍の場を見いだし、多くの人たち特に母親に希望と勇気を与えるものとなりますように。

（イエスの小さい兄弟会

塩田 希）

大切にしましょう

私達は続けて二度の流産、そして、子宮外妊娠と悲しい思いを経験しました。しかし今、5人の子供に恵まれ、あわただしきの中にも幸せを感じています。

赤ちゃんは、受胎した時から、立派な人格をもった人間なのです。それなのに大人の都合で、大人の勝手で小さな命をなくしてしまふことは、絶対に避けるべきです。責任をもって育てていくべきだと思います。

大切にしましょう。小さな命を。

（太田カトリック教会

Aさん）

沢山のことを

教えてくれます

私の知人で3人目のお子さんが欲しくて、妊娠するのですが流産を繰り返して、3度目の流産の時、先生が亡くなった胎児を見せて下さったそうです。その時人間の体を感じさせる部分です。出来ていないのを見て、涙がこぼれてならなかったそうです。私も同じ様に3人目を2度流産した時、望めば出来ると思っていた生命は受胎する時から愚かな人間の思いでなく、神の神秘の中で生き始める事を確信しました。小さな命は私達に沢山の事を教えてくれます。

(太田カトリック教会

Bさん)

若者の声

ビデオ・沈黙の叫び

いやな気分

私は、ビデオを見てとてもいやな気分になりました。中絶された赤ちゃんがあのようになり、めちゃくちゃになっていいるとは思っていません。中絶された赤ちゃんが必死に逃げようとしているのが映像に映し出されて、逃げようとしていても衝動的でした。世の中には、子供が欲しくてもできない夫婦もいるのだから、むやみに中絶などしては、絶対いけないと思えました。

(永利香代子)

本当に悲しい

中絶は、人間の手によって行われるものだから、ある意味では、殺人と言ってもよいと思います。私の身近にある話では、中絶の話ではなく、死産の話をよく聞きます。最近も知り合いのおばさんが二人目の子供が死産でした。何も言わずにあげられなく、とても悲しい日が続きました。中絶というのは、本当に悲しいことだと思えます。ビデオを見て、本当の現実が分かってくるような気がしました。

(中村佳代)

意志をもっている

私は中絶のビデオを見てとても驚きました。もうちゃんと胎児になっているのに同じ人間の手でその命を奪うのは残酷だと思えます。あのビデオで中

絶された赤ちゃんは自分が殺されるといいうのを感じると鼓動が早くなったりするなんて生まれる前から生き続けたいという思いが強いんだなあと思いました。しっかりした意志をもっている赤ちゃんを母親の都合で殺すのは絶対にやめてほしい！

(井上富美子)

《事務所だより》

柿の実が色づき始めました。実りの秋です。

去る8月21日菊田昇先生が大腸癌のために亡くなられました。日本の生命尊重運動に多大の貢献をされた先生が私たちに残されたものを大切に、同じ思いを持つ者が心と力を合わせて、小さな生命を大切に育む社会を作るためにさらに呼びかけ、働きかけてゆかなければならないと思えます。先生のご冥福を心からお祈りいたします。

来る11月3～5日、東京で「カトリック正義と平和協議会全国大会」が、にんげん・地球・いのちのちを問われる社会への責任をテーマに開かれます。プロ・ライブも展示スタンドを出します。実りあるネットワーク作りができますようお祈り下さい。

皆さんからの素晴らしい記事が少しずつ集まっています。子供・生命をめぐって感じていることや体験などは是非お寄せ下さい。匿名でも結構です。皆さんの声が社会を変える力です。

プロ・ライフ・
ムーブメント